

令和4年度 第1回文化財保護審議会 会議録					
開催期日	令和4年8月4日（木） 午前10時00分～11時00分				
開催場所	農業委員会議室（7階）				
出席状況	委員7名中7名 事務局6名				
傍聴人状況	0名				
主な議題	（1）令和3年度文化財保護事業報告について				
	（2）令和4年度文化財保護事業計画について				
	（3）その他				
席次番号	委員氏名	摘要	席次番号	委員氏名	摘要
1	大山 宏尚	㊟・欠	7	白石 匡子	㊟・欠
2	鈴木 重臣	㊟・欠			
3	鈴木 勉	㊟・欠			
4	滝澤 隆	㊟・欠			
5	千代田 光雄	㊟・欠			
6	堀内 仁之	㊟・欠			
事務局	梅澤 十三男	生涯学習部長			
事務局	羽ヶ崎 紀子	生涯学習部副部長兼青少年課長			
事務局	大村 和男	生涯学習課長			
事務局	犬塚 真由子	生涯学習係長兼郷土資料館長			
事務局	石橋 まり	生涯学習課主事			
事務局	大東 加奈	生涯学習課主事			

会 議 名		令和4年度 第1回文化財保護審議会
議 事	事務局	1. 開会(司会進行:大東主事)
		2. 委嘱書交付
		3. 教育長あいさつ
		4. 委員・職員紹介
		5. 会長・副会長の選出 会長には大山委員、副会長には千代田委員が選出された。
		6. 議事 (1) 令和3年度文化財保護事業報告について ○資料1 令和3年度文化財保護事業報告
		【質疑応答】
	委員	「みさとデジタルミュージアム」の閲覧数が少ないと思う。コロナ禍においてもっと活用されると良い。 ホームページを見てみると探しにくいと感じる。デジタルミュージアムの存在を知らない人も分かるよう、市のホームページのトップページにバナーを置く等工夫をし、もっと活用できる方法を検討して欲しい。
	事務局	ホームページ担当課と調整し、よりアクセスしやすい方法がないか検討していきたいと思う。
	委員	デジタルミュージアムで公開したテーマは今でも閲覧可能か。
	事務局	「MISATO 1896～20XX展 - つながるオリンピック・パラリンピック -」は特別展開催中の期間限定公開であったが、それ以外のテーマは常設として公開しているため、現在も閲覧可能である。
	委員	寄贈された資料はどこに収蔵しているのか。
	事務局	郷土資料館の収蔵庫やバックヤード、市役所内の倉庫に収蔵している。
	委員	文化財マップ作成を計画しているとのことだが、作成する前に所有者に内容を確認したほうが良いと思う。
	委員	現行の文化財マップを増刷するのではなく、他市町村の文化財マップを研究しより良いものを作成して欲しい。
	事務局	他市町村の研究を行い、また内容の確認を行いながら作成していきたい。
	委員	文化財マップの形状から十分に検討を行い、時間をかけて良いものを作成して欲しいと思う。
		(2) 令和4年度文化財保護事業計画について ○資料2 令和4年度文化財保護事業計画 説明
		【質疑応答】
	委員	文化財めぐりについては、当面中止となっている。今回の歴史さんぽのテーマは「彦成地区の文化財」ということで、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら実際に巡ることができたら良いと思う。 文化財サポーターの登録者の人員は変わってきているのか。
	事務局	ここ数年は新規加入者はいない。
	委員	文化財防火デーは文化財を所有している寺院等へ行き、防火訓練を行うのか。

会 議 名		令和4年度 第1回文化財保護審議会
	事務局	防火訓練は予定してない。今年度はららほっとでの展示と市ホームページにて文化財防火デーに関する記事を掲載し、啓発を行っていく予定。
	委員	第2回文化財保護審議会が2月に予定されているが視察等行う予定はあるのか。
	事務局	第2回文化財保護審議会では、令和4年度文化財保護事業計画の途中経過の報告を行う。視察については、現在未定であるが新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、審議委員の皆様から様々なアドバイスをいただきながら第2回審議会の内容について検討していきたい。
		(3) その他
		資料3 三郷市立八木郷小学校旧木造校舎玄関遺構調査報告書をもとに堀内委員より説明。
		【概要】
		八木郷小学校旧木造校舎玄関の特徴は、
		・支柱柱が単独柱ではなく、明治以降の擬洋風建築に用いられた三本柱となっている。柱は小壁までで、屋根を直接支えていない。別構造となっている。
		・柱の上から屋根下までの小壁部分（洋風建築ではエンターブレチャーという）は和風の土壁とし、両側を木製板でサンドウィッチ状に挟んでいる。板の外側に薄い木製板を用いてギリシャ神殿風の装飾を施す。
		・玄関内部の天井中央部分にも寄木風の装飾がある。
		・屋根は内防水のため、先が跳ね上がった形となっている。屋根の上にも棟飾が付けられている。
		埼玉県全体を見渡しても、木造校舎が残されている例は数少ない。
		県南部で見るとコンクリートに建て替えられていることが多く、木造校舎時代の名残があるのは貴重なため、市の有形文化財として指定に値すると思う。
		今回は維持管理のための修繕であったが、市の指定文化財となったら、文化財としての修理を行っていかなければならない。現在柱の下部はモルタルとなっているが元の状態を見せるために撤去したり、玄関として使用されていた当時のガラス戸を復元したりしても良いと思う。
		また建物の修理にあたっては塗料が問題となる。木材を守る意味でも色を塗ることは大事であるが、彩色に注意しなければならない。
		【質疑応答】
	委員	三本柱と屋根の部分は別構造ということだが、屋根が柱の上に乗っている形なのか。
	委員	屋根をほどいてみないとわからないが、桁材があり、中に小さな柱を入れて真壁を作り、両側に合板を貼って塗装している。
	委員	モルタルで固めている柱の下の部分は、元の柱が残っているのか。
	委員	柱の下部には板壁が見えるため、下まで残っていると思う。モルタルを取れば下に大きい礎石があると思われる。
	委員	資料の図-2は、どこにあるものか。
	委員	教育委員会から提供いただいたもの。
	委員	八木郷小学校旧校舎を解体するときに文化財の担当職員をしていた。教具や窓を教育委員会の保存庫に保存していた。窓には一枚一枚に、東和東小学校と書かれていた。そういったものがあればなお一層良いと思う。
	委員	ガラスに学校名を書くのは、昔よくやっていたこと。
	委員	柱の下部は確かモルタルだったと思う。

